

豆田町では、ボクの役目は終わりだよ。



町なみ散策をさらに楽しくする

豆田まめ知識

かわら版



平成12年 下町通り(御幸通り)は電線類の地下埋設工事完成。
平成13年 国土交通省の「美しい町並み大賞」を受賞。
平成16年 『重要伝統的建造物群保存地区に選定。』
平成21年 上町通りの無電柱化工事完成。

豆田地区(約10.7ha)は、歴史的町並みが評価され、平成16年12月『重要伝統的建造物群保存地区』(伝建地区)として国の選定を受けました。これは、「古い町並みを大事にしよう。」という国の取り組みです。時代の流れの中で、一度は静かになってしまった豆田町でしたが、今、豆田の人は古い歴史を持つ町並みを大切に守りながら生かしていこうと考えています。

天領日田おひなまつり
毎年2/15~3/31公開

豆田の旧家で代々引き継がれてきた貴重なお雛様が公開されます。昭和59年から始まり、全国のおひな祭りの先駆けとなりました。



日田のおまつり

川開き観光祭(花火大会)
毎年5月20日過ぎの土・日に開催

三隈川の鮎漁解禁を祝う祭り。夜に打ち上げられる花火は美しさと共に音を体で感じることが出来る盆地日田ならではの素晴らしいです。

水郷日田
水のきれいな地を水郷(スイゴウ)といっています。中でも日田の水は特に美しかったので濁さず「スイキョウ」と呼ばれるようになりました。

日田祇園祭

毎年7月20日過ぎの土・日に開催



疫病や風水害を祓い安泰を祈念する勇壮な夏の祭り。豆田町では四基の山鉾が町を巡行し、優雅な姿を披露します。特に挽山(提灯山鉾)はきれいです。

日田天領まつり 毎年11月の第2土・日に開催
千年あかり 毎年11月の第2金・土・日に開催

日田が天領だった時代を偲ぶまつり。豆田の町並みの中で再現される約200名の郡代着任行列は見ものです。千年あかりは2万本の竹灯籠の灯りが幻想的な、おまつりです。



豆田町の歴史

江戸時代の始め、豆田町は丸山町という名前でお城を中心にしてきた城下町でした。
丸山城のちに永山城と呼ばれるようになり、町の名前も永山町になりました。

一六三九年には永山城の麓に代官所(通称永山布政所)が設置され、花月川南側の町屋は豆田町と呼ばれるようになりました。
※代官所とは殿様が地方の領地を治めるために置いたお役所のようなものでした。

一六八六年、日田は天領となり以後幕末まで徳川幕府の直轄地でした。
天領は全国に約五十ヶ所ありましたが、特に重要な場所四ヶ所には「郡代役所」が置かれました。
(江戸・高山・笠松・日田)
日田は「西国筋郡代」として九州大名のお目付け役となり大変重要な役割を果たしました。

山紫水明で豊かな土地、しかも北部九州のほぼ真ん中にある日田は、交通の要所でした。代官所のお膝元であった豆田町には各地から大名や商人が集まり、ひととき賑わいをみせていました。

豆田町の商人達は全国各地から集まる大名などを相手に商売をし、大活躍をして豊かになりました。
こうして豆田町は商家町として繁栄していったのです。

ところが、明治時代に入り江戸幕府がなくなると大名商人の行き来もなくなり、豆田町は少しずつ静かな町になっていきました。
しかし、昭和50年代に入り古い町並みを活かした町づくりが進められ、昭和54年の天領まつりの開始、昭和59年のお雛まつりの開始、平成2年の山鉾完全復活などの取り組みがなされ、町に活気が戻って来ました。

豆田町の水路について

古絵図によれば天和2年(1682)には町割りかほぼ完了し、町内には1本の水路が、正徳元年(1710)には3本の水路が城内川より引き込まれ、豆田町を東西に貫流しています。3本の水路は豆田町の最小自治単位(上町は室町・平野町・八幡町、下町は1丁目・2丁目・3丁目)を区分しており、生活用水や農業用水への利用と共に町割りの役割を果たしていたと考えられています。
又、文政7年(1824)には、小ヶ瀬井路が城内川に導かれ、城内川を利用した通船が可能となり、田町南側に河岸が設置され、豆田町に港湾機能が加わりました。港町の名前はこれに由来しています。

豆田地区の家屋調査報告(調査軒数91軒→延~軒数169棟) 平成17年3月時点

年代	町家主屋	座敷	屋敷	土蔵	その他	合計
江戸時代	21	6	6	27	0	60
明治前期	13	0	1	4	0	18
明治後期	32	3	2	12	0	49
大正期	8	5	2	6	1	22
昭和前期	16	0	0	1	3	20
計	90	14	11	50	4	169

「町あるきのふしぎ?あれこれ」

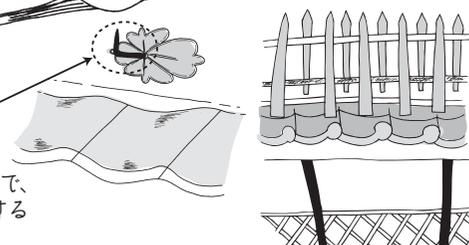
ふしぎ其の一
軒下の竹かざりは何?

「パイパイ」といいます。山鉾の両サイドに飾るもので、一説には水しぶきを表していると言われています。花飾りとともに魔除けとして軒下などに飾られます。



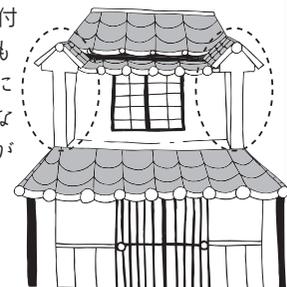
ふしぎ其の二
壁から出ている釘は何?

「折れ釘」といいます。土蔵などを修理する時に使われるもので、足場をかけたりにして作業をしやすくするためのものです。



ふしぎ其の三
うだつって何?

隣家への延焼を防ぐための防火壁です。町屋の二階の片側や両側に付いている壁。これは防火のためのもので、瀬瀬資料館や嶋屋などの二階に付いています。少し気をつけて見ないと気が付きません。「うだつが上がる」という表現の語源です。



ふしぎ其の四
屋根にのっているのがった竹は何?

「しのび返し」といいます。門や塀の上に置いて不審者の侵入を防ぐためのものです。痛そうでしょう?